

## 第2回朝日地区地域審議会が出された意見の整理

朝日地区は広範囲であるため、一つの「地域まちづくり協議会」で活動していくのは難しい。文化や歴史、人々の交流などのつながりが深い旧5地区単位で区域設定するのが一番良い。

朝日地区は集落の伝統行事をととても大切にしてきたし、これからも残して行こうと努力している。また、旧5地区単位のごつながりは深く、過去に行事を行っていたり、今、その枠組みで新たに事業を展開している地域もある。この5地域の枠組みを上手に利用していけば、協議会設立をスムーズに進めていけるのではないかと。

ある事業に限定して補助金を支出するのではなく、「地域まちづくり協議会」に支出する交付金であれば、「地域まちづくり協議会」を早く設立してとにかく財政支援を受けようと、設立を急ぐ地域も出てくることが考えられる。設立の早い遅いに関わらず、十分協議が出来るように、全ての協議会に公平に交付できるような方法を考えるべきである。

区長さん方に頼んで理解をいただかないとまとまりがつかないと思う。区長さん方に集まってもらってまとめるようにしたほうが良い。

村上市の将来を考えると「市民協働のまちづくり」は地域の活性化、地域の元気づくりのための企画であると思う。村上市は資本を投下しないと少子高齢化で限界集落になるのを待っているようなところだ。特に当地区は高齢化率が高く危惧も強い。「市民協働のまちづくり」は集落の区長さんを先頭にしながら、若い人で地域づくりのリーダーになれるような方をメンバーに入れて、協議会設立後も継続して次の世代を育成していくような仕組みを作ることが必要になってくる。

朝日地区は愛ランドあさひが設立され活動している。そういうところとも連携しながら協議会の活動を模索していった方が良い。

少子高齢化で集落、地域自体が寂しくなったときに、市からの支援がないと地域を維持していくことがとても難しくなる。「働く場所がない。」「楽しくない。」と「前向きになれない。」と思うことが一番怖い。こんなときこそ財政支援をし、職員を配置してくれると地域に活気が出てくると思う。今の村上市の現状から

すると「市民協働のまちづくり」事業に取り組み、地域を活性化していくことは夢があって良い。

若い人がいなくなり集落単位の事業や活動が出来なくなってきたので、もう少し広い範囲の地域で何かをやっていこうというのは理解できる。しかし、計画を立てて、実行に移すことは地域が広くなればなるほど様々な弊害が出てきて簡単に出来ないこともある。難しい部分がたくさんあることも覚悟して臨まなければならない。